

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370103949		
法人名	社会福祉法人 諒和会		
事業所名	グループホーム さくらの里		
所在地	熊本県熊本市松尾町近津1364番地		
自己評価作成日	平成22年7月9日	評価結果市町村報告日	平成22年8月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通ビル4F		
訪問調査日	平成22年7月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域の小学校の運動会や地域の福祉祭り等に招待していただいたり、事業所の行事にも招待し地域との交流を図っており近所の方や小学生が気軽に立ち寄り入居者と会話やお茶を楽しまれる等の関係が築けている。入居者それぞれに掃除や洗濯物たたみ、調理の手伝い、裁縫等得意分野や趣味を生かした生活リハビリを取り入れ、心身の残存機能の維持、自立支援に取り組んでいる。併設施設とも毎日申し送りを行い、連携を図っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自然に恵まれた環境に位置するホームは、法人の他の介護施設の一角に建てられ、季節ごとの神事には入居者も参加され喜ばれている。開設当初から地域との交流に力を入れており、地域連携委員会では年間を通して交流を図る計画がたてられている。地域の小学生を対象に基本的な知識の介護教室を開催し、継続した交流を行っている。法人内の研修も同一テーマで3回開催するなど職員の教育体制も整い、職員のケアの統一を図っている。家族との信頼関係も構築されており、行事や外出にも協力的である。入居者の趣味(編み物・ぞうきん縫い)や娯楽(トランプ)を生かした個別対応が行われ、ゆったりと落ち着いたホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ありがとうの心をさりげないやさしさに」の理念のもと職員綱領を作成し毎日朝礼時出勤職員全員で唱和することで、理念に則したケアが実践できるよう取り組んでいる。	理念は玄関の目につく所に掲げ、また毎日朝礼時に職員要領と理念を唱和し職員間で共有を図っている。新人研修時や年に1回は全職員にも理念の云われについて話し、日々理念にそったケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の運動会やイベントに参加したり、法人内の敬老祭やクリスマス会に来ていただいたりして交流している。また、地域の方や小学生と挨拶を交わしたり、遊びに来られたりと日常的に気軽に交流を行っている。	小学生の登下校時に挨拶を交わしたり、運動会や地域の祭りに参加している。法人内の行事に地域の方を案内したり、ホームに子どもが遊びに来るなど年間を通じて交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学生を対象とした介護教室を毎年開催し認知症高齢者や身体の不自由な高齢者への理解を深めていただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況や、活動報告のほか防災対策や食中毒対策等議題を決め取り組んでいることを報告し意見交換したり地域の情報を頂きサービスの向上に努めている。また、行事に開催日をあわせ参加していただくことでより理解を深めていただけるよう努めている。	定期的に会議を開催し、活動報告や状況報告の他、毎回テーマを決め意見交換を行っている。	継続的な会議の開催を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターが参加しサービスの取り組み等伝えたり地域の情報提供を受けている。また、月1回介護相談専門員を受け入れ入居者にも喜ばれている。	日頃より市役所に出かけたり、担当職員と連携をとり相談したり情報を得るようにして協力関係を培っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内勉強会で学ぶ機会を持ち、全職員が身体拘束について正しく理解し日々のケアにあたるよう努めている。	職員は研修会で身体拘束による弊害を正しく理解している。玄関は日中は施錠せず、出入り自由で入居者が出られる時は見守り中心で、日々身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修会において学ぶ機会を設けている。また、入居者のちょっとした変化に気付けるようコミュニケーションや観察を行っている。		

グループホーム さくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内勉強会や研修会等で学ぶ機会を設けている。当事業所では現在利用が必要な方はおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時や解約時は、職員2名で対応し口頭と文書で説明を行い十分に理解、納得されたうえで同意を得よう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見、要望、苦言を遠慮なくいただけるよう用紙、ポストを設置し、事務所の見やすい所に苦情相談窓口プレートを設置している。また月1回介護相談専門員を受け入れており相談員からの情報をもとにサービスの向上に努めている。	面会時や毎月お便りでホームでの状況を報告し、意見を聞くように努めている。年4回家族会を開催し、家族同士のつながりもできている。毎月介護相談専門員の訪問を受け入れることで、入居者についての情報・発見もあり、サービスの向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議の場を設け、職員から意見や提案を出し合っている。	日常的に管理者は、職員とのコミュニケーションが図られており、意見や要望を把握している。また職員による企画提案もあり、毎月の会議で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格所得に向けた支援を行っており各自の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内勉強会は、多くの職員が参加できる体制を設けている。また、事業所内でも月1回勉強会を行い、新入職員には、新入職員マニュアルに沿って項目ごとにマンツーマンで指導し個々の知識、技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本市グループホーム連絡会に参加し、同業者との意見交換や勉強会、講習会を開催しサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学に来ていただいたり、入居されてからの対応がスムーズにいこう各職員が情報を把握し入居後の要望等を入居者が話しやすいような環境を作りゆっくりと話を聞き受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に困っていること、不安なこと、要望などをよく聞き、本人の希望、ご家族の要望、職員の思いなどゆっくりと話し合い、本人やご家族が求めているものを理解し受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に無理がないように事前に話し合い入居前に遊びに来ていただくなどし、先入居者や職員、環境になじんで頂きながらじょじょに安心していただけるよう勤めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事準備、掃除、また季節行事など入居者の得意分野での活動を共に支えあいながら過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に4回の家族会、小旅行、衣替え等ご家族に協力いただいたり、面会時には家族の思いや本人の生活状況、職員の思い等報告し、情報を共有しながら本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の訪問やご親戚、古い友人などの面会や電話を受け入れ馴染みの関係が途切れないようにし、また、馴染みの場所へのドライブを行っている。	今までの馴染みの方の訪問や電話がある時は取り次いで話してもらうなど、馴染みの関係が継続できるよう支援している。行きつけの理美容室への同行は家族の協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が気軽に交流が図れるように、団体又は個別、状態に合わせて職員が間に入り支援している。		

グループホーム さくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた方に入居者と一緒に遊びに行ったりグループホームでの行事に参加して頂き継続的な関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族からの情報収集や日常のかかわりの中での会話やしぐさで望む暮らしや意向の把握に努めている。	入居者との日常の会話や関わりの中から、また家族からの情報収集から意向や希望を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にケアマネージャーやソーシャルワーカー等に確認すると共に本人やご家族との面談時に生活歴や経過等情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中でどの程度できるのかを実際に行っていたり、できる部分や理解力を観察することで個々の能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族からの意向の確認、担当職員を中心に各職員間で話し合いを行ったうえでサービス担当者会議を開催し現状に即した介護計画を作成している。	入居時はしばらく様子をみた上、カンファレンスを開催し、ケアマネージャーからの情報や家族の意向をもとに計画作成担当者が計画をたてている。定期的なモニタリングを行い、現状に即した計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態や職員の対応は個人記録に記入し朝、夕の申し送りを行うことで職員間の情報の共有を計っている。また、介護記録をもとに月1回モニタリングを行い介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内のホールやデイサービスを利用しリハビリを行ったり、入居者の希望にあわせ併設事業所のレクリエーションに参加するなど柔軟な支援を行っている。		

グループホーム さくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議や地域包括支援センター等から情報を頂いたり、地域、小学校、保育園での行事やグループホームでの行事等で行き来し、交流の場を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に必ず本人、ご家族に説明し納得された上で協力医療機関を決定している。希望により他医療機関での往診をしていただいております。本人の希望に沿うように支援している。	入居者や家族の希望に沿った受診支援をしている。かかりつけ医の受診は、家族の状況に応じ職員が同行し、家族に結果を報告している。毎週協力医療機関による往診もあり、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回のドクター往診時は医療連携看護も同行している。また入居者の健康状態は随時報告しており協力体制確保が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診時や病院受診時に生活状況等の情報提供は随時行っている。入院された場合は、ご家族や医療機関にこまめに連絡をとり本人の状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い事業所が対応できる最大の支援について説明を行い本人やご家族と話し合い意向を確認し方針を共有して支援を行っている。	重度化になった時は家族、かかりつけ医と話し合いホームとして対応できる最大の支援を行っている。入居時に、その時の状況に応じた適切な処置があることを説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を定期的に行い全職員が急変や事故発生時対応ができるよう訓練をしている。また、緊急時対応マニュアルを作成し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て定期的に入居者と一緒に避難訓練をしている。施設内の設備点検、非常時の食料、飲料水、備品の準備も行っている。運営推進会議で訓練時の状況等を報告し地域の方の理解、協力が得られるよう働きかけている。	定期的に法人合同とホーム独自で入居者も参加して避難訓練を実施している。	特に夜間想定避難訓練は継続して実施されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう入浴、排泄、会話時など生活の全てにおいて声かけ、対応には十分に注意し一人ひとりの気持ちを尊重していけるような支援を心掛けている。	入居者の人格を尊重した対応を心がけ、プライバシーに配慮した言葉かけを行っている。記録類の保管は事務所でやっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を職員が決定するのではなく、利用者の希望や意見を意図的に引き出し自己決定が出来るような環境、場面作りの支援を行っている。又、全職員が利用者本位を徹底し心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が決定するのではなく、本人の希望や気持ちを尊重し一人ひとりに合ったペースで生活していただけるよう支援している。一人ゆっくり過ごされたり散歩をしたり自由に過ごせる時間も大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意向や好みで整えられるよう支援している。毎朝の髭剃り、外出時などご本人と一緒に選んだ服を着ていただいたり行事では化粧やヘアアレンジなどでおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれに調理、配膳、片付け等できることをして頂き食事時は職員が入居者と同テーブルと一緒に食事を摂り会話しながら好みや嗜好の確認を行っている。誕生日にはケーキをつけ誕生会をしたり、そうめん流しや鍋パーティーを行い季節感を楽しんでいただいている。	職員が献立をたて、入居者の状況に応じて、買い物、調理、後片付け等を一緒に行っている。職員も同じ食事を摂り、会話をしながら楽しいひと時になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食個別に記録し摂取状況の把握に努めている。また入居者の栄養状態や嚥下状態に応じた食形態にて提供している。水分は食事時以外もこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝前に入居者の力に応じ歯磨き、義歯洗浄の声かけや介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。		

グループホーム さくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いそれぞれの排泄パターンを把握し早めの声かけで失禁防止に努めている。オムツやパッドは個々の状態にあわせて随時見直しを行っている。	必要に応じてin-outを記入した排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材は食物繊維の多いものを取り入れたり水分補給時に牛乳を多く摂取してもらっている。楽しく運動をしてもらったり散歩も頻繁にもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調、状況等を見ながら気持ちよく出来るよう希望に添った支援を行っている。入浴を好まれない方には機嫌の良いときに声かけをし清潔の保持に努めている。	入居者の希望に応じて柔軟な支援を行っている。入浴拒否がある時は、声かけに配慮しタイミングを図っている。汚染がある時は、シャワーや清拭を行い、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は入居者の希望に応じて支援を行っている。日中は体調や様子を見ながら休憩を促し生活のリズムが崩れないように入居者に合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人カルテに綴りいつでも確認できるようにしている。内服時は本人に手渡し、口腔内に服用するところまで確認し薬袋を回収することで飲み忘れの防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや掃除、洗濯など本人の得意分野を生かし状態に応じた役割を生活の中に持たせている。また茶道が趣味の方には他入居者にお茶を振舞う機会を設けたり、裁縫が趣味の方には、雑巾作りや手さげ作りをして頂き趣味を継続して出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近隣の買い物のほかにも入居者、ご家族も一緒に日帰り旅行へ出かけた。少人数で外食する機会を設ける等個別、又は集団での外出行事を行い季節を感ぜられるよう配慮している。	日常的には近隣の散歩や買い物に出かけたり、花の手入れなどができるよう支援している。季節ごとの花見や外食、家族の参加もある日帰り小旅行など戸外に出かける機会を作っている。	

グループホーム さくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力、理解を得て本人でお金の管理をして頂き、自分で支払い買い物をする楽しみや自分で管理しているという安心感をもっていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人に電話を希望される場合はいつでも電話しやすいよう職員が支援し、電話の子機を使用して頂き、居室や玄関等で気兼ねなく話ができるようしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは窓を大きく取り景色を眺め季節や天候の変化を感じやすいよう工夫している。食堂には散歩の時摘んだ花を飾ったり対面式の台所から食事の支度をする音やにおいがして生活感を高める工夫をしている。職員が大きな音を立てないように配慮している。	玄関の内外のベンチ設置や和室など一人や気心の知れた人同士が過ごせる場所を確保してある。全員ホーム内では自力歩行的のため共有のスペースの家具配置に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先と玄関ホールに椅子を置いて1人で、また気の合った入居者同士で外の景色を眺めたりしてくつろげる空間作りを行っている。和室にはテーブル座布団を設置しテレビを見たり本を読んだり思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には使い慣れた日用品や家具を置きご家族の写真や趣味の道具を飾り居心地の良い自分らしい部屋作りをしている。	入居者の使いなれたタンス・ソファ、テレビや家族の写真等が持ち込まれている。また、茶道の趣味を生かしたり、ゆっくりできるような畳式マットを備えるなど一人ひとりにあった居室づくりの支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニバーサルデザインになっており手すり、椅子、またバギー車や歩行器を使用し安全に移動できるよう配慮している。各居室に表札をつけトイレもすぐ分かるよう大きく貼り紙をしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	消防署の協力を得て、定期的に入居者と一緒に避難訓練を実施しているが、災害時に昼夜問わず全職員が対応できるようにしたい。	災害時の対応方法を全職員が習得できる。	夜間想定 of 避難訓練も含めて継続的に訓練を実施する。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。